

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス共育コラム⑥

## かけがえのない青春の1ページ～



### 中学校部活における最後の大会

先日、中学生男子の試合を観に行きました。中学3年生にとって中学校生活最後の大会。ベスト4による準決勝の闘い、抜きつ抜かれつの壮絶な戦いでした。延長戦にもつれこむ大接戦。最後も1点差で勝敗が決しました。久しぶりに、いいもの見せてもらいました。勝者も敗者も関係ない。場内すべての人が両者をたたえることのできる、心からエールを贈りたいと思える試合でした。両チームにOBがおり、一方の監督もOB、審判の一人は教え子でしたので、いろんな思いが交錯しながら大接戦の試合を観戦しました。とても複雑な心境でした。観戦したのは準決勝だけで、その後の決勝は観ていません。が、翌日聞くと、これも延長戦にもつれこむ大接戦だったそうです。

次の筑豊大会でも両者は対戦し、再度延長、再延長にもつれこむ大接戦だったそうです。いずれも県大会に出場しましたが、残念ながら初戦敗退で、中学校生活最後の大会を終えています。しかし、まちがいなく、自分(たち)のなかに、貴重な青春の1ページを記すことができたと思います。

### 高校部活における最後の大会

高校でも、高校3年生にとっての最後の大会が行われ、地区予選から県大会への出場権を競う大会が行われていました。OB2人がチームの中心選手の一角を担っていました。私が観戦したのは女子ですが、いいチームでした。その意味は、個々の力というより、選手層の厚さと各選手の適材適所での起用、選手個々が主体的に試合にかかわっていること、そして互いへの信頼が見てとれたことです。私が見たのは準決勝の試合です。流れが行ったり来たりで、最後に流れが来た方が勝つだろうなと思いながら見ていました。最後4クオーター途中まで、1・2ゴール差の接戦でした。中盤に鞍手に流れが来て10点差あいたところから、その差をキープし、逃げ切って勝ちました。競っているときも含めて、一人ひとりがとてもいい表情で臨んでいました。ミスもありましたし、個々の実力だけをみれば不十分さもありましたが、チームメートどうしが、うまく補い合っていました。結果、準決勝を勝って県大会出場が決まりました。

OBの二人のプレーも、久しぶりに見ましたが、身体が大きくなっている分、パワーがつきプレーが安定しスキルも向上していました。小学生の時のプレーの特徴やクセは、そのまま見られましたが、それでも、このチームの中心選手の一人としてプレーできているのは、自分の役割をよく自覚していて、そのプレーに専念していたことだと思いました。それを可能にするチームに所属できたことが、今日の体験を生み出していたと思います。互いを信頼できる素晴らしいなまつと指導者、いいチームとの出会いに感謝ですね。公立高校のここまで奮闘に拍手を贈りたいと思います。

### 奇跡の1ページ

中学生も、高校生も、自身にとって貴重な「青春の1ページ」を残すことができたのではないかと思います。このような経験は、「奇跡の1ページ」と言えます。チームが強いから、自分はがんばったからといって遭遇できるものではありません。自分の思いや願い、チームの実力だけでは出会うことはできません。個のスキルが高くても、さまざまな理由で途中離脱せざるを得なかつたり、あきらめてそこから離れてしまっていると、この1ページにはたどりつけません。いったん自分で決めたことなら、節目までは、やり通してほしい、がんばりぬいてほしいと思うのは、その出会いの可能性を大事にしてほしいとの願いからです。もちろん、そうやってがんばってたからと言って、必ず今回のような場面に遭遇できるとは限りませんが、何もしていなければ、そこに身をおいてなければ、可能性は0ですから。

バスケットに限らず、すべての子どもたちが、自ら臨んでがんばるものなかで、このような体験を積むことができるといいなあと思っています。このような体験が、自己実現の土台にしっかりと備わることで、その後のその子を強くします。ひと息ついたら新たなステージに向けてスタートを切ってほしいと思います。

子どもたちにとっての貴重な1ページに出会わせてもらえたことに感謝です。試合は勝ちたいと思ってがんばるでしょうし、それが楽しいのだと思いますが、「勝ち」だけが、その後につながるわけではなく、「負け」がその後を切り拓くことだってあります。どこで勝とうが負けようが、そこに至るまでのプロセスが、どれだけ価値あるものであったかどうか、そのことの方が、よほどその子の将来に意味をもつものになります。

ミニバスケットの子どもたちにも、日々の活動の積み上げが意義あるものとなるよう、また、良きなまとの出会いの場となるように、かかわっていきたいと思います。かけがえのない貴重な青春の1ページに、その奇跡の1ページを生み出したこれまでのプロセス（努力）に、心から拍手を贈ります。

